

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098700117		
法人名	社会福祉法人光輪会		
事業所名	グループホーム恵のいえ		
所在地	福岡県みやま市高田町濃施501-3 (電話)0944-32-9735		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 19 日	評価結果確定日	平成 29 年 12 月 7 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

みやま市高田町の中心部に位置しています。交通の便利も良く、JR、西鉄電車の駅からも近いです。南側には病院、外来診察、訪問診察でもお世話になっています。24時間いつでも診てもらえる安心感があります。近隣には食料品店、菓子店、図書館などがあり買い物にも便利です。ボランティアによる訪問も利用者の楽しみの一つです。近隣住民の協力を得ながら、生活感あふれるホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 29 年 10 月 17 日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな町の中心部に位置し、母体である病院の裏手に、クリーム色の壁に黒瓦の木造平屋建て、1ユニットの事業所である。設立から4年目の真新しい、設計にも力の入った作りになっている。事業所独自の理念である「利用者目線で物事を考える」「利用者が生活を実感できるよう」をいつも念頭に、意識しながら日々健やかに穏やかに暮らせるよう、実践にむけて取り組んでいる。理念をみんなで共有し、ここが我が家と思える家庭的雰囲気を大事にしている事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える場所に提示しています。朝礼時に全員で唱和して、理念の共有と実践に努めている。	事業所独自の理念を掲げ利用者一人ひとりが、生活を実感出来るような支援を念頭に職員は毎朝礼時唱和し、月1回のミーティングで確認しながら、実践に向け日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に事業所として加入。地域の話合い、町内清掃、昨年はお祭りの手伝い、ご不幸があれば皆でお参りに行くなど地域住民との交流に努めている。	町会・自治会に加入している。事業所便りを周辺地域に、ポスト投函している。地域行事である秋まつりや清掃活動に参加している。事業所では夏祭り・運動会・キッズハウスからの訪問など地域の方との交流を深めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受入れ、行事に参加してもらい、交流を持つことで認知症の理解を深めてもらっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。利用者の近況報告、行事などの報告、質疑応答を行い、意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的で開催している。事業所から、利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、参加委員から意見や助言をもらっている。体力測定のこと、年末の帰宅状況などについて意見をもらい、そこでの意見を活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡協議会、地域ケア会議、運営推進会議、地域連携懇親会などの場を活用しながら意見交換や協力関係を築くようにしている。	行政と事業所は日頃から連携を図っており、書類提出や疑問があれば行政窓口へ行く機会を設けている。2ヶ月に1回地域密着型サービス事業者連絡協議会で、意見交換しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会、施設内でも研修会を行い周知はしている。玄関の入り口にチャイムをつけて昼間は施錠していない。	日中は施錠していない。身体拘束に関するマニュアルを作成し、全職員は法人内部研修に参加し、その弊害を知っており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。パンフレット・研修記録に全職員の押印がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人の研修会、施設内でも研修会を行い周知はしている。虐待発見のチェックリストを使い、日頃から防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を行い周知している。家族へもパンフレットを作成し説明している。玄関にパンフレットを準備しているので、該当者がいればいつでも渡せるようにしている。	権利擁護に関する制度については、パンフレットを用意し利用者・家族には、契約時に説明している。パンフレットも持ち帰って学べるよう玄関に準備している。全職員は法人内部研修を受講している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明はもちろん、法改定に伴う変更事項が発生した場合でも、重要事項説明書にて説明をおこなっている。書面を作成し家族の理解・納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いています。面会時には様子を説明し、希望があれば運営に反映させるようにしている。	家族は運営推進会議に出席しており、意見や思いを述べる機会がある。家族の来訪時には、普段の生活状況・意見や思いを聴けるよう声掛けに努めている。要望などはミーティングで話し合い、反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・終礼時はもちろん、月に1回は職員ミーティングを行い提案事項、変更事項の確認を行っている。意見を出せる場としている。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。職員は日常的に運営に対する意見や提案、研修受講、勤務に対する希望など言いやすい職場環境にある。月1回のミーティングでは利用者ケアについてケアの統一、情報の共有、業務内容の見直しなど運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、勤務実績、能力などを精査・評価を行い、賞与に反映させることとしている。職員が各自で目標を設定し、その成果を上げるための助言、サポートを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用については、公正に試験を行っている。また、職員個々の能力が発揮できるような外部研修・内部研修を行い資質向上に努めている。	法人本部で採用選考を行っている。筆記試験・作文など、適性・人間性を重視している。職員個々の能力が発揮できるよう、研修も年間スケジュールで計画され、研修の参加、スキルアップに努めている。職員各自で目標設定、自己実現出来るよう配慮がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修会、施設内での研修会を行い周知はしている。高齢者の虐待問題を含め、人権を尊重するための教育に努めている。	事業所は全職員に対し、法人内部研修で人権教育について学ぶ機会を設けている。テキスト・パンフレット・研修記録には全員のサインがある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を考え、外部・内部研修・法人の委員会活動に参加している。ケアマネ等の受験者には試験対策講座等にも参加してもらっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会、地域ケア会議、地域連携懇親会などのに参加してネットワーク作り、質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学をしてもらい、面談をしている。これからの住まいの説明をすることで安心されるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所後も本人・家族と面談をしながら関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に尋ねて、何が必要かを確認している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活とその人の生活リズムを把握し、何でも話せる信頼関係、生活パートナーとなれるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定表、新聞、写真等を配布して、生活の様子を伝えている。また行事への参加を促し関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夫の位牌や思い出の写真等を、お部屋に飾ったり、面会の時に行事の案内をする等、接点を持てるように努めている。	利用開始時に、本人・家族などから馴染みの人や場所について聴取し把握している。本人とのつながりを深めていけるよう事業所での暮らしや介護にも家族も関われる場面や機会づくりをしている。馴染みの食堂で外食をしたり、買い物をするなど家族の協力を得ている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション、体操等、利用者同士が関われるプログラムを準備している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会に行ったり、次の入所先の相談を受けた時は、アドバイスをしています。経過に応じた対応ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族と定期的に面談を行い、希望・意向の把握に努めている。	職員は本人家族などから生活に対する意向を、機会あるごとに聞いている。日々の生活の中でも親近感を持ってもらえるよう、さりげなく声掛けし、電話をしてあげたり利用者の真意の把握に努めている。遠隔地の家族とは手紙を交換するなど本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を収集し、生活環境を整えるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活シートを作成し、個の生活を大切にしている。現状把握も朝礼、終礼、ミーティングの場を使い情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、または6ヶ月に1度は計画を見直し、家族や本人等の意見を聞き、介護計画を作成している。	本人・家族に希望意向を聞き、職員の気づきやアイデアを反映しながら、本人本位のその時点に合った、一人ひとりの具体的な介護計画を作成している。モニタリングを行い6ヶ月毎に見直し、利用者の状態変化や、状況に応じて随時見直しをしている。家族に報告しサイン・押印を貰っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトを使い、食事・排泄・入浴などの項目、生活の様子などは画像を取り込み記録している。職員も自由に閲覧でき、情報の共有、計画見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアに協力してもらっている。歌・踊り等、様々な活動をしてもらっている。家族には、買い物・外食等の協力を得ています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに協力してもらっている。本人の楽しみ作りに活かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員に主治医を持ち、定期的に家族による通院、訪問診察を受けている。医師と連絡を取り合い、日々の健康管理に努めている。	利用者全員がかかりつけ医を持ち継続し、定期的に家族付き添いで通院している。専門医などの受診も家族付き添いでと、話し合い合意している。その際情報提供書を家族などに手渡ししている。担当医師と連携をとり、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、毎朝、随時のバイタル測定と利用者からの聞き取りをしている。協力病院へ状態を報告しアドバイスを受けることもある。内容と情報は職員間で共有し、早期発見・早期治療に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、病棟スタッフ・連携室と情報交換を行い、退院後にも対応が迅速に進むように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針を入所時に説明している。また、協力病院や関連施設の特別養護老人ホーム等の協力を得ながらチームで対応できるように努めている。家族や本人の希望を尊重したケアを主治医と相談しながら行っている。	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針があり明文化している。利用開始時に本人・家族などの意向・希望を尊重し、最大の支援を行い、その後事業所での生活継続困難時には協力病院と連携し、次の生活拠点への移動を話し合い合意している。最大の支援を全職員が共有していることを説明している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備しており、さらに実践対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行い、避難の方法・連絡方法を職員間で共有している。自動通報装置を使い、関連施設からの応援体制も整えている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。夜間設定も実施し母体法人の協力も得ている。避難方法・連絡方法は職員間で共有し熟知している。地域住民へ呼びかけを行っているが参加は得ていない。非常用食料、飲料水備品は事業所内に整備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語に心がけている。話す時と同じ目線、人格、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。また、施設内研修にて意見を聞き、内容を提示し周知している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう職員は利用者と目線を合わせて、言葉かけや対応に心掛けている。管理者は内部研修やミーティング時に職員の見聞などを聞き、話し合いを持ち意識向上を図り、さり気ないケアの実践に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をしながら、本人の希望を聞いたり、その旨を家族へ説明し、なるべく意向が叶うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ尋ね、希望に添うよう支援をしている。家族へ外食、買い物をお願いすることもある。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧・洋服の好みを尋ねている。化粧品の購入、2ヶ月～3ヶ月に1回はカットを家族へお願いして、身だしなみの支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	甘いものが好きなので、団子をよく作ることがある。職員と利用者で、盛り付け・配膳・片付けなど行っている。食事が楽しみとなるように努めている。	職員と利用者は一緒に盛り付け、配膳、後片付けを行っている。同じものを同じテーブルで会話を交わし見守りながら食し、雰囲気を楽しいものになっている。献立にも工夫があり栄養バランス・彩り・好みにも配慮し利用者は全員完食している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、水分量・摂取量なども記録している。医師の指示で麦茶を準備するなどしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをしている。手直しの必要な利用者には、本人が磨いた後に再度磨くようにしている。歯科往診で治療を受けることもある。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作成し、トイレへ案内している。排泄自立へ向けて努めている。	排泄チェック表を作成し、身体をゆする、落ち着かないなどの行動は、利用者の排泄サインと把握し、さりげなく支援している。尿意のない利用者もトイレで排泄できるよう時間を見計らって誘導し、自立に向けた支援を行っている。パット類の大きさ・種類など家族と相談している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操など身体を動かす内容を取り入れたり、腹部マッサージ、医師の指示で緩下剤を使うなど便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回または希望があれば毎日でも入れる環境を整えている。幅広く対応できるように努めている。	週3回と、大まかな設定はあるが、利用者の希望などに合わせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否者には、人・時間を変え、タイミングを図るなどの工夫をし、一人ひとりに添った支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら休んでもらったり、個々人で休みたい時は、お部屋で休んでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の「効能書」をファイルしている。職員がいつでも閲覧して確認できる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に確認をするようにしている。仏壇にお参りしたり、読書などをされます。楽しみ作り、気分転換の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は個人でニーズが違うので、家族へお願いしている。ドライブ・外食など理由は様々。本人の希望に添った支援を心がけている。	利用者の体調や天気に配慮し、テラスでの外気浴や近くの景色を眺め楽しんでもらう。家族と一緒に庭の散歩、外食や買い物、花見など家族の協力を得ている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自分で持っている利用者もいます。家族と外出の時に使っている。物を買う実感が得られるように支援をしています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申出があったら対応しています。手紙も届いたら本人へ渡している。返事を勧めたり、代筆の支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を材料として、天井も高く開放感がある。室内の装飾もステンドグラスを使い、目で見ても美しい空間になっている。花を飾ったり、季節感を出すように工夫している。	棚田を思わせる鉢植えの花に和める玄関、共用空間は自然の明るさが広がり清潔感がある。利用者が何時でも語り合えるよう机、いす、ソファが程よく置かれている。暖かい絵柄の額が飾られ、温度、湿度、採光、音量にも居心地よく工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、皆さんでくつろげる空間にしている。テーブルでは新聞を読んだり、雑誌を読んだりされる。思い思いで過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。人形・思い出の写真などレイアウトして居心地よく過ごせる工夫をしている。	各居室入り口は表札代わりに、模様の違うステンドグラスのドアを使用している。家族写真・鏡・化粧品・カレンダー・テレビ・時計など好みの物を活かし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっている。リビングを囲むように、手すりを設置。トイレ、風呂場も同様です。玄関にはスロープを作り自立した生活が送れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない